

梵蔵たかちゃんの空想・仏教史101-100-1jtdの記載

- ◇仏教の話を知ろうとする心構え。
- ◇仏教とは何か(1)? 人を苦悩の世界から脱出させ、成仏させる教えと方法と力。
- ◇仏教とは何か(2)? 釈尊の悟り⇒拡大⇒「如来蔵」⇒特別化・秘儀化・差別化。
- ◇“仏”という文字の解釈。
- ◇両刃の剣…事象は使い方によって良くも悪くもなる。用いる人の意識の問題。
- ◇歴史認識…歴史とは、勝者による正統性・最高性を主張した創作物語。
- ◇仏教史概略《空想101-1》…仏教の変遷。
- ◇仏教史概略《空想101-2》…仏教の伝播。(北伝(漢訳)仏教、南伝(戒律))。
- ◇仏教以前の状況(1) ……四大文明。ギリシャ文明。
- ◇仏教以前のインドの状況(2)…インダス文明⇒アーリア人の侵入。
- ◇仏教以前のインドの状況(3)…輪廻と業の原初的発生。
- ◇仏教以前のインドの状況(4)…輪廻と業とアートマン。
- ◇仏教以前のインドの状況(5)…アートマンとカースト制度。
- ◇仏教以前のインドの状況(6)…古代インドの発展。
- ◇仏教以前のインドの状況(7)…バラモン支配。
- ◇仏教以前のインドの状況(8)…反バラモン⇒自由思想家の台頭。
- ◇割込：枢軸時代。

《閑話休題(1)…今迄の纏め》

※梵蔵たかちゃんと名乗っている、私から仏教の話を知ろうとする姿勢について。

※目では見えない世界のことが多いので、唯物論的なフィルターで毒されていると、疑心暗鬼な想いが次々と湧いてきます。まあおかしな考え方をする人もいるのだと、気楽に聞き流して下さい。

※人間とは、物質的肉体は極く一部で、他に幾つもの体が重なって創られています。

エーテル体、アストラル体、心、意、霊、気、識、光背、オーラ、後光、光輪、
靈魂、魂魄、心靈、神靈、形而上、四次元、等々様々な表現があります。

※仏教とは、“自らを含めて人を成仏させる為の教えと方法と力” ⇒成仏教⇒仏教。

◇成仏とは、“この世のあらゆる束縛から解放されること。苦悩の世界から脱する事”

◇苦悩の世界とは、「生・老・病・死」など、四苦八苦・輪廻転生する苦界の事。

◇つまり、苦界から離脱する為の“教えと方法と力”のことを“仏教”と言う。

◇身近な言葉では、“煩惱”と言われる、人間が悩み苦しむ原因を軽減し、最終的には煩惱を根底から無くすことを目指す“教えと方法と力”のことです。

※歴史について、歴史とはその時点での勝者が正当性・正統性を誇示する為に創られたものが殆どで、敗者の記録や考え方は抹殺され、消滅してしまう。為政者が替わると前代の神より、自分達の神が強く正しかったという神話が創られます。

※紀元前7000年頃からインド亜大陸で農耕・牧畜が始まり、バローチスターン農耕諸文化があった。紀元前3000年頃、初期ハラッパー諸文化があり、紀元前2500年頃のインダス文明は土地の隆起で流路が変わり滅亡したが、人々はインドなどへ移動した。

・紀元前2500年頃のエーゲ海文明(前期:キクラアス文明。後期:クレタ文明)

・紀元前2000年頃、北ドイツ付近からアーリア人南下。ギリシャ文明(ミクナ文明)

・紀元前1200年頃、第二波アーリア人南下。(第1次ギリシャ文明⇒破壊…暗黒時代)

・紀元前700年頃、ギリシャ(アルカイック時代)・ペルシャ建国(ゾロアスター教)

この前後十数世紀に亘り、ギリシャ系アーリア人が、ペルシャ⇒インドへ流入。

バラモン教で支配。(太陽信仰→拝火教→ホーマ…後に中国・日本に護摩として伝播)

この過程で、輪廻と業の思想が発達。インドで定着。

・アーリア人を最上位のバラモン階級とする、輪廻と業の思想によるカースト制度で、差別化と自分達の安定化を図った。

※時代が経って、呪術と複雑な祭儀を司っていた、バラモン階級にも墮落傾向が強まり、権威が落ちてきた時、自由思想家達が現れた(その中の一人が釈迦であった)

◇釈迦は、バラモン達が始めた身分制度(カーストは永久に變化しない)という束縛に加え、人間としての大きな四つの苦(生・老・病・死)からも脱することが出来ると説いた。

つまり、諸行無常、諸法無我…総てのものは変化する⇒靈魂も永久不変では無い。

善行・修行によって変えられる。⇒後の言葉で「八正道」

※仏滅後、教団分裂、夫々の主張を盛った經典創作。主張・修法・本尊・形式・印、等の特別化、権威化、秘儀化などで、現代の仏教は複雑怪奇な迷路状態にある。

【 梵蔵たかちゃんの 空想 仏教史 】

《年表…紀元前》

- ◇紀元前 2500～紀元前 1800…インダス文明
- ◇紀元前 1500頃… アーリア人 侵入
- ◇紀元前 1200頃… リグ・ヴェーダ成立
- ◇紀元前 1000頃… アーリア人 ガンジス河流域へ進出
- ◇紀元前 800頃… プラーフマナ文献成立
- ◇紀元前 600頃… 十六大国併存。→四大国繁栄
(マガダ。コーサラ。ベツツァ。アバンティー)
- ◇紀元前 586頃… ゴータマ・シッタールタ 生誕(異説あり)
- ◇紀元前 518 … アケメネス朝 ダレイオス1世 侵入
- ◇紀元前 500頃… インド東部に都市の成立。
古ウパニシャッド成立
六師外道の活躍
- ◇紀元前 491 … マガタ国 ビンビサーラ王没
- ◇紀元前 486頃… ゴータマ・ブツダ没(異説…BC483。BC383 etc)
- ◇紀元前 327 … アレクサンドロス大王 インド侵入
- ◇紀元前 317 … マウリア朝 成立
- ◇紀元前 300頃… 中期ウパニシャッド成立
サーンキヤ学派成立
- ◇紀元前 280頃… 大衆部と上座部 分裂(根本分裂)
- ◇紀元前 268～232 アショーカ王 在位
- ◇紀元前 250 … カピラ没
アビダルマの始まり
- ◇紀元前 3世紀 スリランカヘマヒンダ長老による仏教初伝
ビルマヘソーナ、ウッタラ両長老が仏教伝道
- ◇紀元前 3～2世紀 ビシュヌ派とシバ派の成立
- ◇紀元前155～130頃 メナンドロス王 西北インド征服
- ◇紀元前2世紀頃 ヒンドゥー教興起
説一切有部成立
- ◇紀元前2世紀頃 大月氏王の使者伊存、博士弟子景盧に『浮屠』口授
- ◇紀元前1世紀頃 大乘仏教運動
- ◇紀元 64 明帝、秦景らを西域に派遣、仏法を求めさせる
- ◇紀元 1～2世紀 大乘仏典の成立
仏像の作成始まる

.....

《空想 (101~1) 「仏教史の概略 (目次)」 》

- 「文明社会の夜明け」 ……エーゲ海文明。ギリシャ文明。ローマ文明。
- 「文明社会の暁」 ……エジプト文明。メソポタミア文明。中国文明。
インダス文明。縄文文化。
- 「仏教以前のインドの状況」 ……アーリア人侵入。バラモン。カースト。
- 「ゴータマ・シッタッタ生誕」 ……釈迦族。蘭毘尼(ルビニー)。
- 「出家の経緯」
- 「釈尊の修行から成道まで」 ……**仏陀伽耶(ブッダガヤ)**。
- 「縁起の法」 「諸行無常・諸法無我」「輪廻転生」
- 「釈尊の初転法輪」 ……鹿野苑(サルナト)。
- 「釈尊の遊行・布教伝道」 ……王舎城(ラージャグリハ)。待機説法。中道。
祇園精舎(ジェータヴァナ・ヴァイハラ)(サハート・マハート)
- 「釈尊の入涅槃」 ……拘尸那揭羅(クシナガラ)。「自灯明・法灯明」
- 「第一結集からアーガマ」 ……**經典の発生『アーガマ(阿含經)』。「経蔵と律蔵」**
四諦の法門。十二支縁起の法門。
- 「第二結集」 ……**十の戒律改正議案→否決。**
- 「根本分裂」 ……上座部：**大衆部**。
- 「アビダルマ仏教 (部派仏教)」 ……**煩瑣哲学化。理論体系化。「論蔵」**
五蘊・十二処・十八界。俱舍論。
三昧經。
- 「大結集」 ……**大乘仏教の発生。**
- 「本生譚(ジャータカ)」 ……**「慈悲の實踐」超人化・神格化**
- 「空という考え方」 ……**実相空大乘時代。**
- 「初期大乘仏教」 ……**創作經典群『般若經・華嚴經・法華經・浄土經』**
『中論・十二門論・大智度論・四百論・百論』
論師：龍樹。聖提婆。訶梨跋摩。
- 「中期大乘仏教」 ……**唯識大乘時代。瑜伽行派「唯識思想」：「中観派」**
『大乘涅槃經・勝鬘經(如来蔵思想)・解深密經』
「阿頼耶識思想」『大乘起信論・成唯識論』
論師：弥勒。無着。世親。
- 「後期大乘仏教」 ……**金剛大乘時代。「大乘思想」**
『大日經・金剛頂經・般若理趣經』
- 「第一期 密教」 ……**真言乘期。『大日經…中心』**
- 「第二期 密教」 ……**金剛乘期。『金剛頂經…中心』**
- 「第三期 密教」 (チベット密教) ……**左道密教期。ヒンドゥー教タントリズム・ヨーガ。**
- 「第四期 密教」 (ブータン仏教) ……

《空想 (101~2) 「仏教史の概略 (仏教の伝播)」》

- 「北伝仏教」……………西北インド→敦煌→中国→朝鮮→日本
「南伝仏教」……………スリランカ→タイ→カンボジア／／→日本。
「西伝仏教」(高田の新説)……………西欧での文献学から翻訳された思想史⇒日本。
「東伝仏教」……………チベット→モンゴル、ブータン→日本
「完全仏教」……………北伝真言宗・天台宗+浄土各宗教+
スリランカ→仏舎利、ブータン密教+ヨーガ
儒教+道教+修験道+神道+科学・医学・心理学。

《空想 (101~3) 「仏教史の概略 (漢訳仏教)」》

※「儒教」との攻防・軋轢

- 「仏教の中国化」
「偽経」の創作
「五時教判の誤り」

《空想 (101~4) 「仏教史の概略 (日本の仏教)」》

※「神道」との攻防・軋轢・融合。

- 「日本への仏教伝来」
「飛鳥仏教」
「奈良仏教」
「平安仏教」
「鎌倉仏教」
「安土・桃山・戦国の仏教」
「江戸仏教」
「明治・大正の仏教」
「昭和・平成・令和の仏教」

梵蔵たかちゃん(高田俊一) 記

梵蔵たかちゃんの空想・仏教史101-200-1jtdの記載

- ◇空想仏教史…年表
- ◇仏教史の概略。
- ◇仏教の伝播・漢訳仏教。日本の仏教。
- ◇閑話休題(今までの纏め)
- ◇仏陀伝(1)…後に創作された本生譚。
- ◇仏陀伝(2)…ゴータマ・シッダールタの誕生。
- ◇釈迦の人種？
- ◇仏陀伝(3)…誕生後のゴータマ・シッダールタ。
父王の懸念。四門出遊。出家…求道の旅へ。
釈迦の瞑想修行。…瞑想とは「集中する瞑想」と「洞察する瞑想」。
当時の苦行。苦行への激しい挑戦。裸形に近い衣。厳しく激しい苦行へ邁進。
- ◇苦行の限界を確信⇒放棄。
- ◇閑話休題(輪廻思想の発達)
- ◇煩惱と言う名の魔王との激しい戦い。
- ◇現世正覚・開悟・成道。⇒解脱を果たし“仏陀”へ。
- ◇「輪廻と業」…古代インドの代表的思想。
- ◇輪廻の中心に据えられた“アートマン”。
転生の原因は、アートマンにこびり付いた“業”が決定。
- ◇苦行の限界を悟り、“無我”の思想に。
- ◇正覚…解脱の悟り。…総ては“関係性”“相依性”による。
- ◇釈尊の悟ったものはどんなことか？
- ◇諸行無常・諸法無我(1)
- ◇当時の状況の再確認。
- ◇諸行無常・諸法無我(2)
- ◇変化する順を十二に分析。⇒十二縁起。
- ◇諸行無常・諸法無我(3)。
- ◇“無我の誤解”

- ◇初転法輪
- ◇ブラフマン(梵天)による、悟りの開示への説得。
- ◇初めての説法『四諦八正道』
- ◇中道…両極端を捨てる。
- ◇八正道。◇四苦八苦。◇四諦の法門。
- ◇仏教の根幹の教え。
- ◇初転法輪の意味。
- ◇続々と集う仏弟子たち(1)。
- ◇当時のインドの宗教思想…六師外道。
- ◇続々と集う仏弟子たち(2)。

◇続々と集う仏弟子たち(3)。王舎城。舍衛城。

◇十大弟子。舍利弗^{しやりほつ}。目犍連^{もくけん}。大迦葉^{だいか}。須菩提^{しよぼだい}。富樓那^{ふるな}。迦旃延^{かせん}。優波離^{うぱり}。羅睺羅^{らうら}。阿難陀^{あなんだ}。

◇根幹の教えからの展開

◇諸行無常と諸法無我。

◇人間の分析。蘊・処・界…三科の法門(五蘊、六根、十二処、十八界)

◇仏陀釈尊の『縁起の法』の畳み掛け問答(一つ一つ、無常の確認)

◇真実の自己

◇四法印(諸行無常・諸法無我・一切皆苦・涅槃寂靜)。

◇差別無き真理の道。

◇瞑想法について、「集中形瞑想法」と「洞察形瞑想法」…瞑想の歴史。

◇呪術について。(呪力獲得が目的となることを危惧。現世利益の為の呪術は無益無用)

◇対機説法。

◇仏陀釈尊の入滅。

◇仏陀釈尊の最後の旅。仏陀釈尊の入滅…荼毘(在家による)。

◇仏舎利信仰の始まり。その経緯。

◇第一結集(仏陀釈尊入滅後の最初の仏弟子の集まり)。

◇ア-ガマとは、伝承という意味。

◇『阿含経經典群』の中で、最重要語句「如是我聞」。

◇根本仏教と言う呼び方。(原始仏教⇒根本仏教)

◇第二結集

◇根本分裂。…十事非法。(当時の複雑な事情)

◇別の動き。アショーカ王の仏教崇拜と統治。(仏舎利信仰の拡大)

◇『ア-ガマ』としての変遷。

◇大衆部と上座部(長老派)の分裂(上座部による大衆部の追放)

◇上座部のその後の動向。(“小乗”と言う侮蔑的表現は、現在では使わない)。

◇スリランカへの仏教伝来。

◇根本分裂以後の大衆部の動向。

◇大結集…大衆部の独立。⇒急拡大。

◇仏舎利奉持の一団と合流。⇒大乘仏教の発生。

◇アビダルマ仏教(上座部は僧院の奥でア-ガマの哲学的解釈に集中。)…部派仏教。

◇部派仏教の複雑な流れ。

◇大乘仏教の經典群創作。

◇……………